

第2章 将来見通し

立地適正化計画は、人口の急激な減少と高齢化が進む中、持続可能な都市経営を目指すことが求められていることを背景に創設された計画制度です。そこで本章では、川西町における今後の人口見通しを整理しました。

1. 将来人口

国立社会保障・人口問題研究所（社人研）による『日本の地域別将来推計人口（平成30年8月推計）』では、本町の人口は令和12年（2030年）には7,166人、令和22年（2040年）には6,024人まで減少すると予測されています。

年齢別人口の推移をみると、老年人口（65歳以上）は令和2年（2020年）まで増加、後期高齢者人口（75歳以上）は令和12年（2030年）まで増加し、高齢化率は令和22年（2040年）で37.9%になると見込まれています。

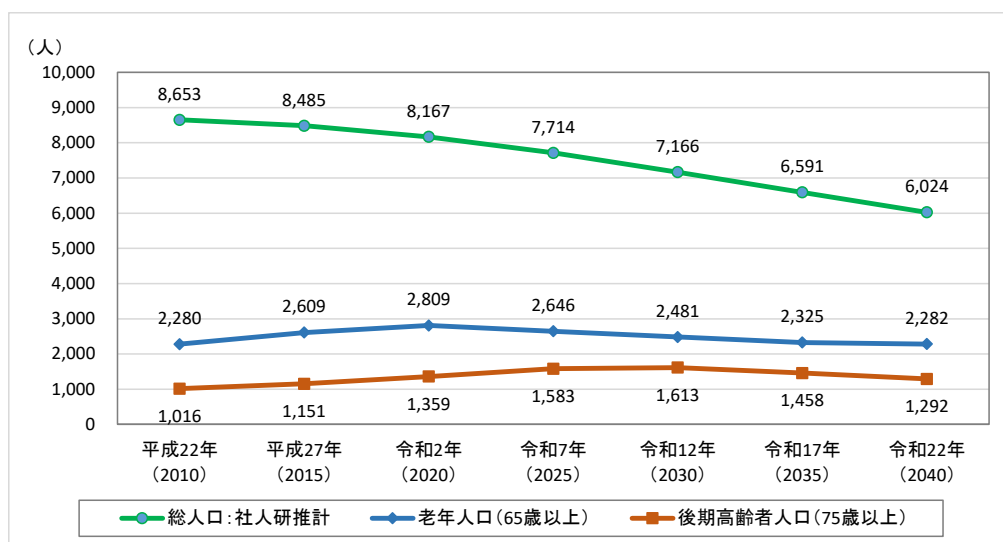
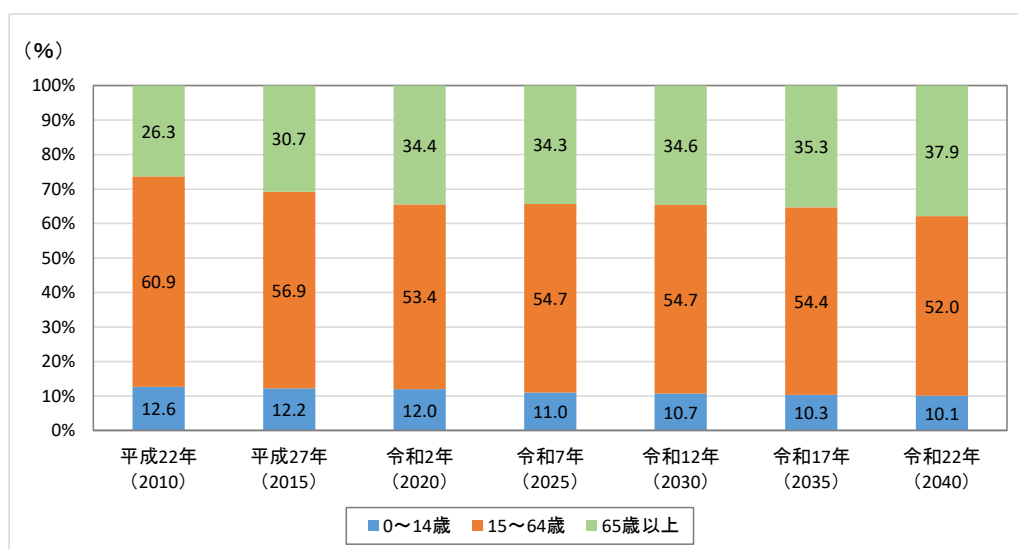


図2-1 人口の見通し



資料：国立社会保障・人口問題研究所

図2-2 年齢別人口構成比の見通し

2. 地区別の将来人口

①人口

将来人口をメッシュ単位で見ると以下のとおりで、市街化区域内でも人口が減少する地区がみられます。

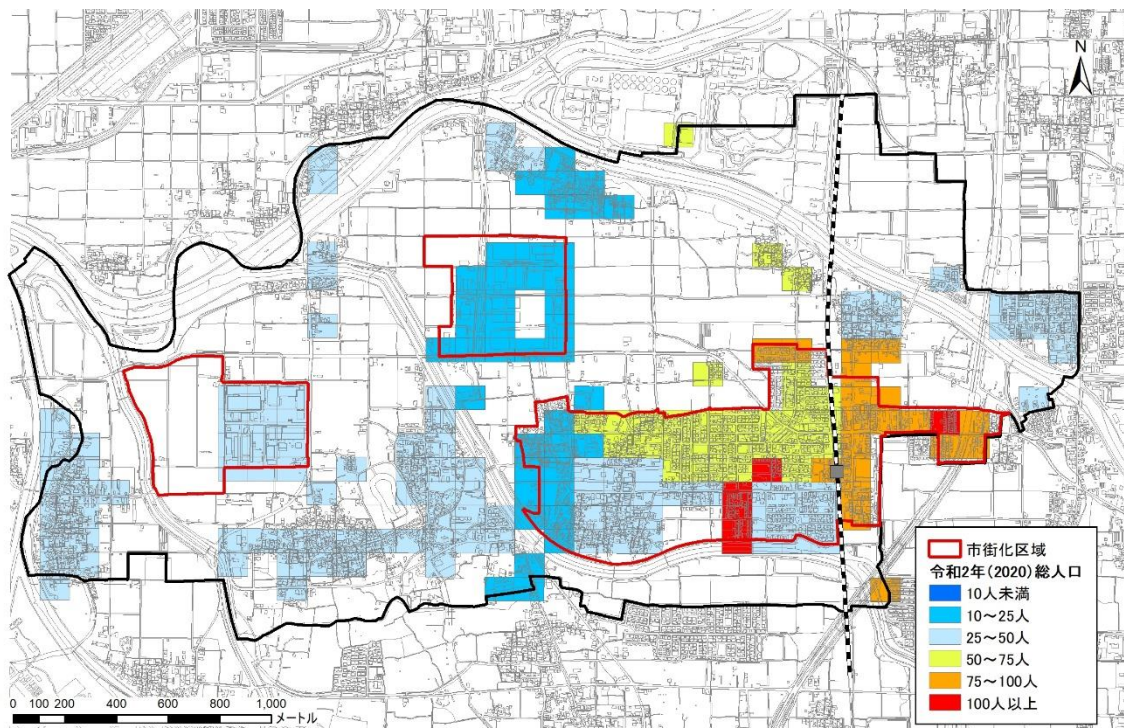


図 2-3 人口メッシュ (令和 2 年)

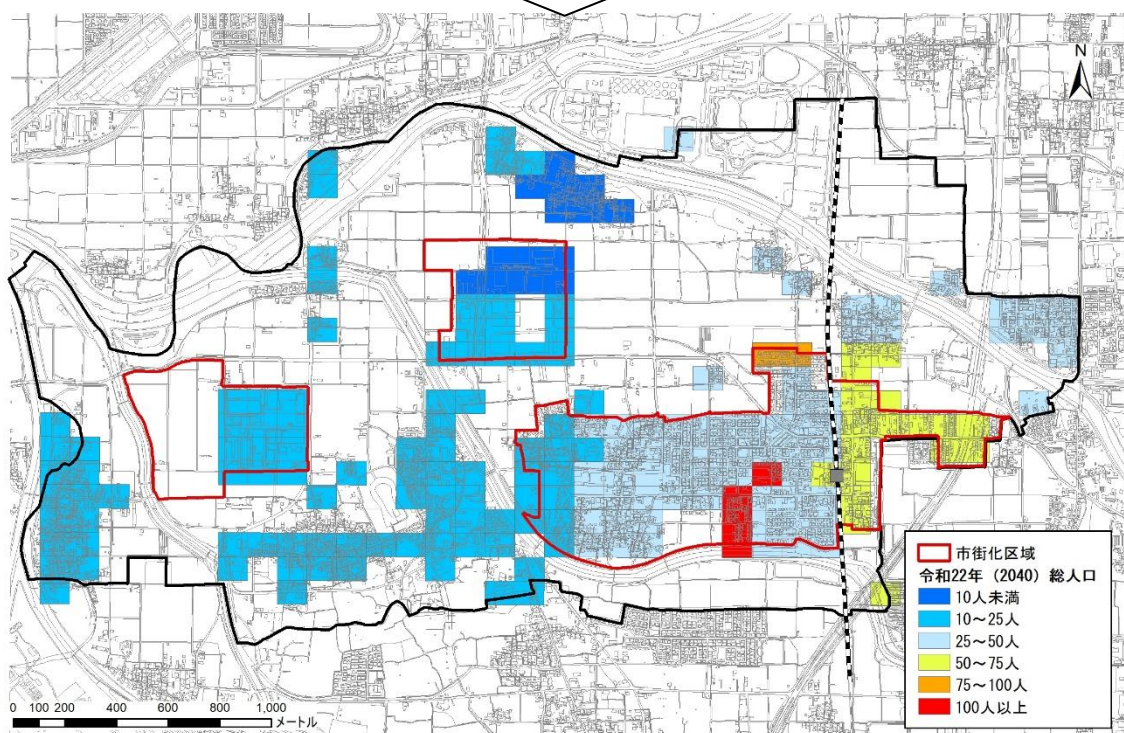


図 2-4 将来人口メッシュ (令和 22 年)

②高齢者数（65 歳以上）

高齢者数（65 歳以上）をメッシュ単位で見ると以下のとおりで、大きな変化はみられませんが、市街化区域内を中心に高齢者数 30 人前後のメッシュがみられます。

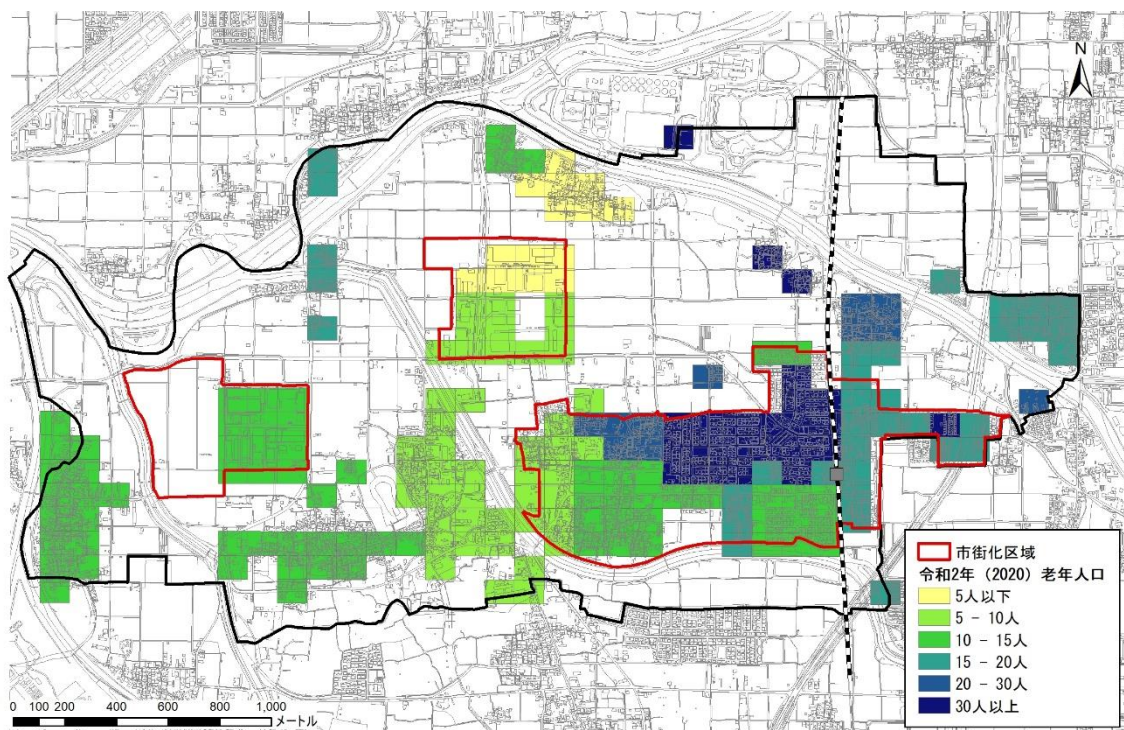


図 2 - 5 高齢者数メッシュ（令和 2 年）

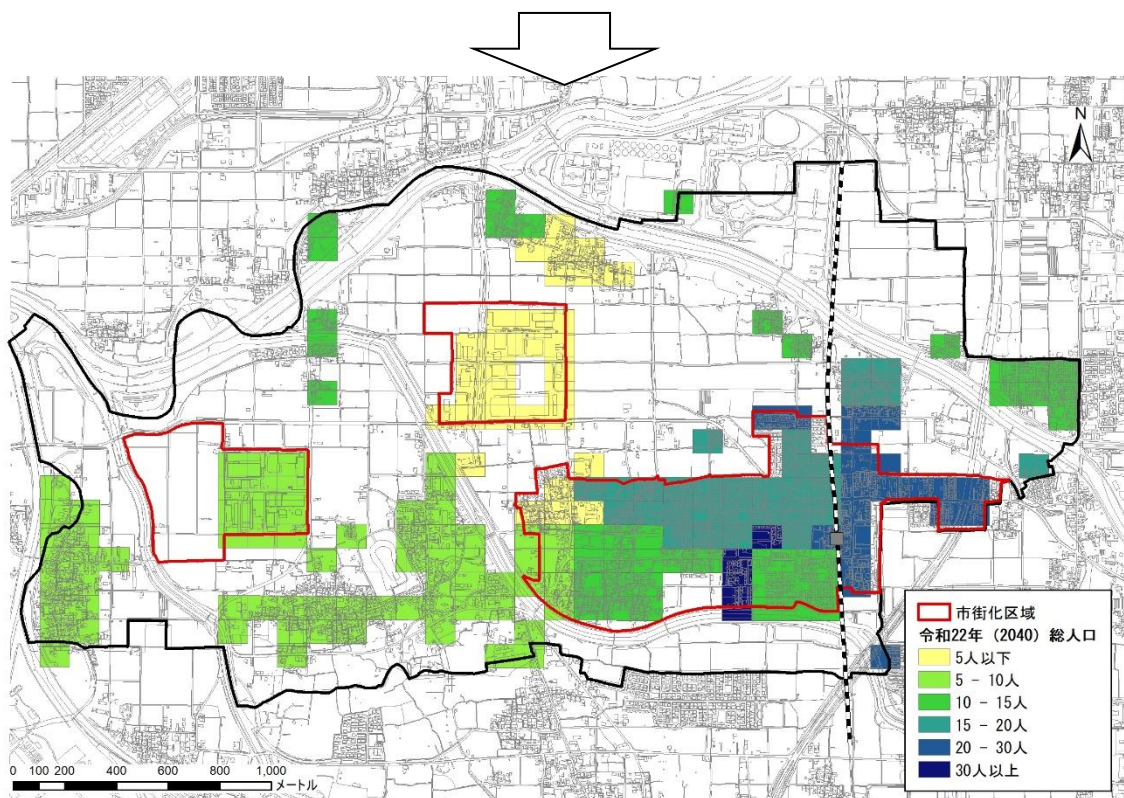


図 2 - 6 高齢者数メッシュ（令和 22 年）

③高齢化率

高齢化率をメッシュ単位でみると以下のとおりで、全体的に高齢化率が増加しますが、特に市街化調整区域では高齢化率が40%を超えるメッシュが多くみられます。

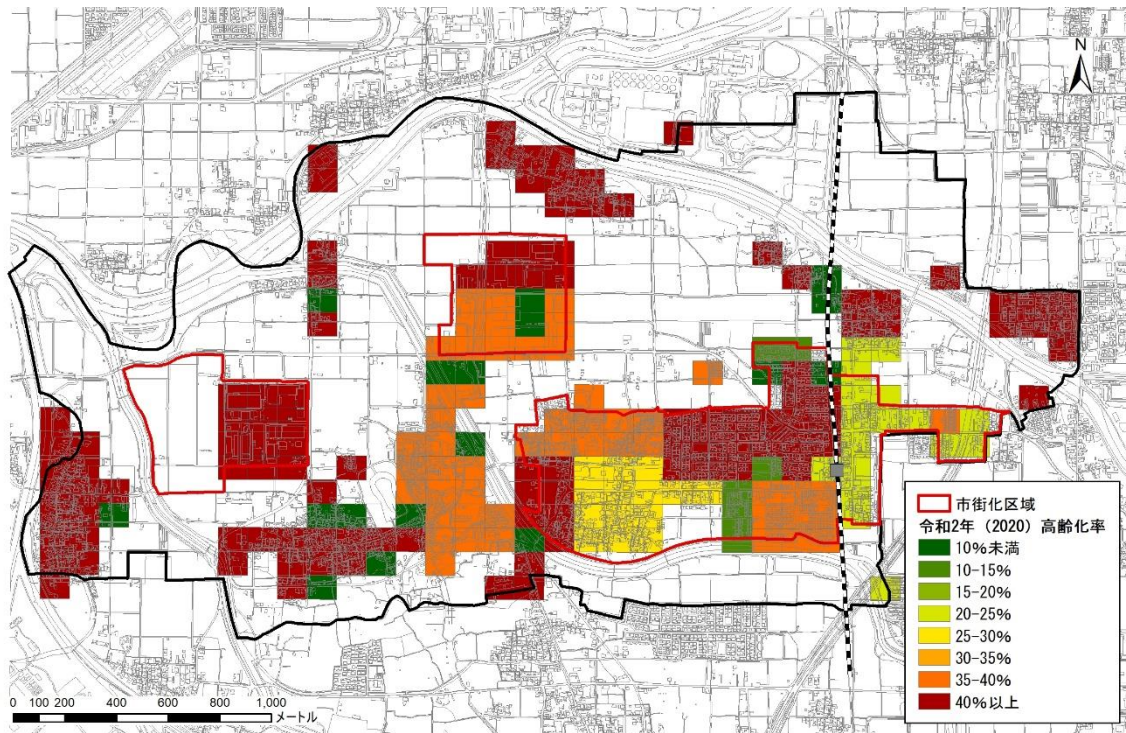


図2-7 年高齢化率メッシュ（令和2年）

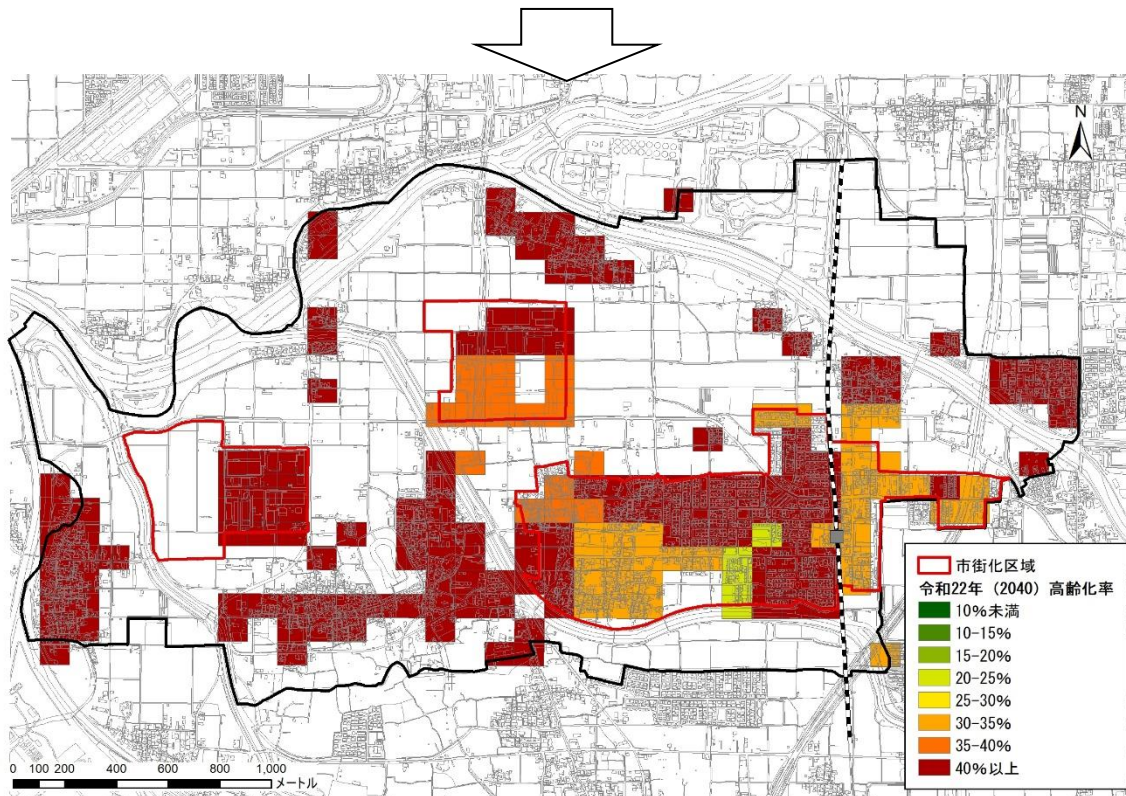


図2-8 高齢化率メッシュ（令和22年）

④人口密度

人口密度をメッシュ単位でみると以下のとおりで、全体的に人口密度が減少しますが、特に市街化調整区域では低密度化が進むことが予想されます。

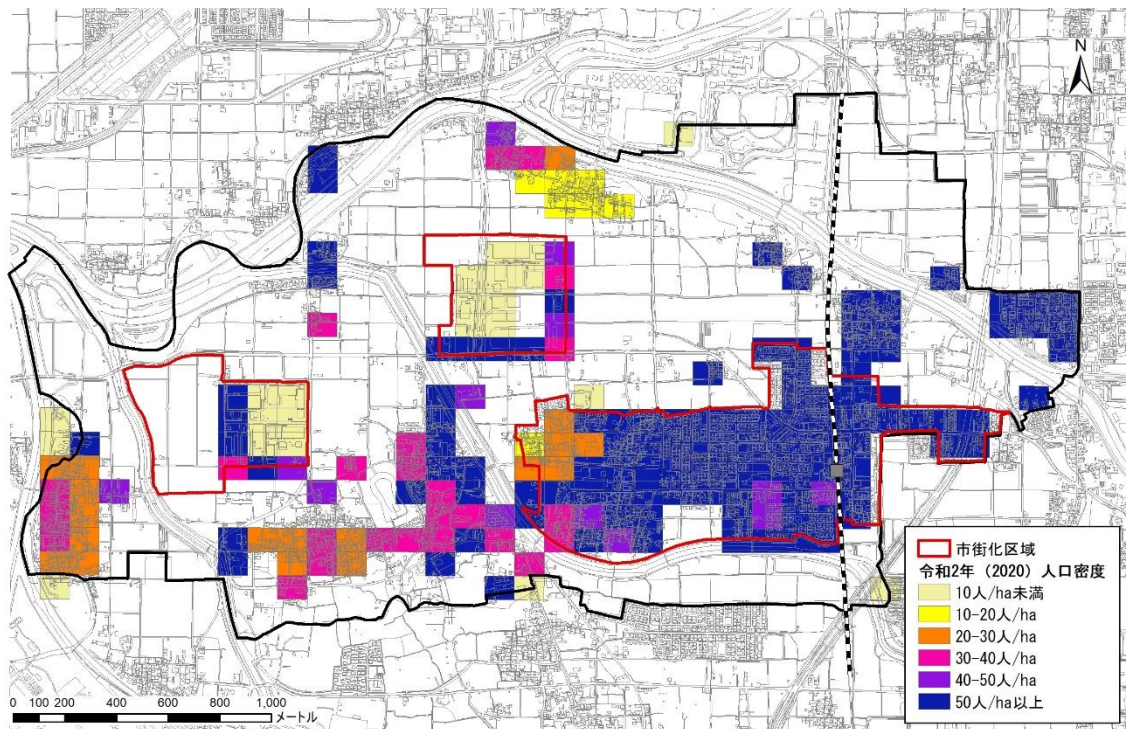


図 2-9 人口密度メッシュ（令和 2 年）

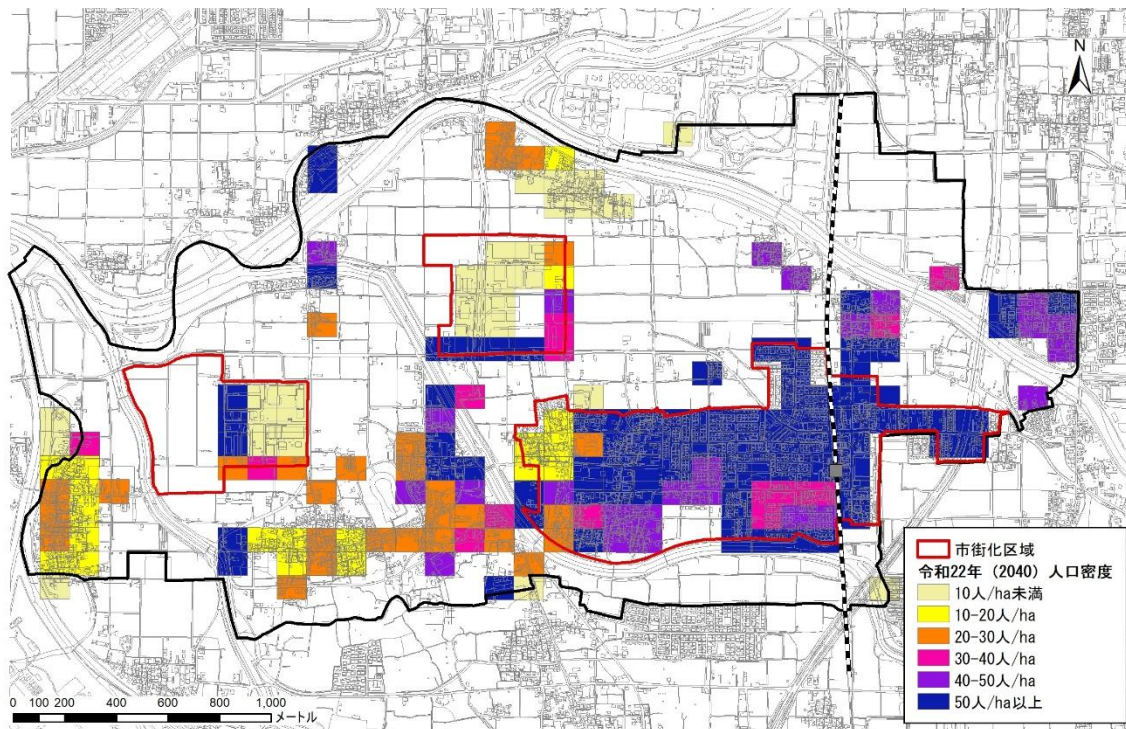
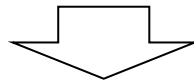


図 2-10 人口密度メッシュ（令和 22 年）